

近畿地方の万葉集と風景画シリーズ（第二十一回）

あ き の 「安 騎 野」

1) 「安騎野」は現在の奈良県東北部、大和高原の南端部に位置する宇陀市宇陀町の宇陀川流域一帯の丘陵地と伝えられてきたが平成7年に実施された発掘調査により、弥生時代、飛鳥時代、中・近世の3時代にわたる遺構が大字拾生ひろうで発見された「中之庄遺跡」で、飛鳥時代「安騎野」と呼ばれ、当時は大和朝廷の格好の狩り場（藁獵）であったと伝えられているが、その中心施設の一部が確認されている。

2) 万葉集には持統天皇を母とする日並ひなみし（草壁）皇子みこがかつて、この宇陀の地で遊獵されたことを追慕し、持統六年（692）冬、その遺児・軽皇子かるのみこ（後の天武天皇）がこの地を訪れた時に、随伴した宮廷歌人・人麻呂が作った次の短歌がある。

①安騎の野に 宿る旅人 うち靡なびき 寐いも

寝ぬらめやも 古思いにしへふに

卷一—46

（解説）安騎野に宿る一行は亡くなった草壁を思いながら、くつろいで寝ることができない。

・「古思ふに」は父・草壁の時代を指している。

・「うち靡き」は体を伸ばしてよこになるさま。くつろぐ

い
・「寐」は眠ることの意。

② ま草刈る 荒野にはあれど 黄葉の

あらの

もみじば

過ぎにし君が 形見とぞ来し

こ

卷一—47

(解説) この安騎の野は荒涼たる原野ではあるが、我らはもみじ葉のように過ぎ去った亡き草壁皇子の形見の地としてやって来たのだ。

ひむがし

③ 東の野にかぎろひの 立つ見え

て かへり見すれば 月傾きぬ

かたぶ

卷一—48

(解説) 東の原野にあげぼのの光がさしそめて、振り返ってみると、月は西空に傾いている。

・「かぎろひ」は夜明けに、東の空にさしてくる太陽の光を指す。

④ 日並ひなみしの 皇子みこの尊みことの 馬な並なめて

み狩かり立たしし 時きむかは来き向むかふ

卷一—49

(解説) 日並しひなみしの皇子みこの尊みことが馬を並べて、かつて狩場に踏
み立たれた時刻は今まさに到来した。

・この歌は一連(巻一46〜49)をしめくくる歌で古
と今、行為と心はここで完全に重なり、亡き皇子への
追慕は果たされたのである。

・「日並の皇子の尊」は日(天皇)に並ぶ皇子。草壁皇
子にのみ用いられたようである。

・「来向ふ」は来て我と面と向う。

(参考文献)・中西進編「柿本人麻呂」、新潮日本古典集

計「万葉集一」・宇陀市ホームページ

(写生地)

柿本人麻呂の歌 (巻一―48) から付けられたという阿岐神社

(宇陀市大宇陀迫間) 前面の小丘 (元大宇陀町役場裏の長山)

「かぎろひの丘」から西側に展望できる大宇陀の街並みと音羽

山麓の風景を描く。(杏花)

